

今年度の事業方針からのご説明

～高齢者の増加する社会こそ、個別ケアが大切～

総合施設長 山岸 孝啓

第二次世界大戦後の第1次ベビーブーマーである団塊世代（昭和22年～24年生まれ）の人が全員後期高齢者の75歳に到達されるのが厳密に言うと6年後の2024年になります。この年に境に高齢化が大きく加速するので、翌年の「2025年問題」として大きくマスコミ等でも取り上げられて、現在はその準備期間と言えます。

2024年以降は、今でも人口は減少が始まり続ける中で75歳以上の人は増加し続けます。この頃には国民の6人に1人が75歳以上で、何と3人に1人が65歳以上となる見込みです。この現実には不安もありますが、前向きに生き抜く決意を強くしたいと思います。

嵐山寮は、その社会の中で多くの人を支援する大切な役割を担わさせていただいています。

例えば特別養護老人ホームでは、現在も100歳以上の百寿者の方が徐々に増えており、90%以上の方が認知症（軽度も含む）の方です。いわば、治療でなく如何に適切なケアをしっかりとるかがポイントです。物事の判断能力の不十分な方も多くおられます。それら全てのご利用者が「幸福に向かう事が出来、体感出来ること」が命題です。

その意味で、「ご利用者を最優先に考え、ご家族・地域住民の思い、立場も尊重して実践します」が今年度の法人の年間テーマです。ご利用者が生きてこられた歴史や今の気持ちを理解し、心情を忖度（そんたく）する「ご本人はどう思われているのか」を基本にした支援を行うことです。特に支援の難しいとされる方の関わりでは、尊敬のできる所を確認して、共有する事が重要です。

むすびに、「介護者への支援」と「高齢者はじめ住民の方にとり、やさしい地域づくり」そして「ご利用者、ご家族の視点を大切にサービス」を今年度も特に心がけたいと思います。

施設長就任から1年を振り返って

施設長 木村 悦子

早いもので施設長に就任してから一年が過ぎました。不慣れな仕事にアタフタしながら、あっという間の一年でした。特にここ嵐山拠点では、他の拠点には無い、ならではのしきたりも残っています。嵐山寮設立者である亀山弘應猊下を尊ぶことから仏事が多いのも特徴です。ですから今でも事あるごとにご利用者の皆さんと心静かに般若心経を唱えています。

この一年を振り返ってみますと、人が集まる場や原稿依頼など『挨拶をする機会』というのが断然増えました。こういう機会をいただきますとあらためて施設長としての責任を感じ、身の引き締まる思いです。特に養護老人ホームについてはこれまでの慣わしから「寮長さん」と声をかけてくださるご利用者の方も多く、皆様の拠りどころとなっていることを強く感じます。

ご利用者や職員とのコミュニケーションを十分に図りつつ、町内会長さんのような適度な距離感を保ちながら一緒に歩んでいければと思います。

嵐山寮は仕事と家庭の両立ができる職場環境を目標に掲げ、職員の様々なライフイベントに対し事業所としてフォローできる体制づくりの取組が認められ、5月に「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証企業として認証されました。



- ・毎週木曜日をノー残業デーに設定し、定時退社を推進。
- ・メンタルヘルス相談窓口を設け、ストレスチェックも年1回実施。
- ・出産・育児・看護・介護に際し、休業・休暇・短時間制度を設定。（育児の場合、満12歳まで短時間勤務可能）

今後も理念である「ご利用者一人ひとりが長寿生活を楽しむ環境づくり」のため、法人として職員が自分らしく働ける環境づくりに取り組んでまいります。